北海道の
学校図書館

発　行　北海道学校図書館協会
会　長　佐藤　正行
事務局長　新津　智哉
http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/
印刷所　㈱有伸商会
ＴＥＬ（011）814-6211

2023年度　青少年読書感想文全道コンクール　入賞者決定!!

今年も全道から、たくさんの素晴らしい作品が集まりました。第１次、第２次審査を経て、入賞者が決定しました。12月３日（日）に晴れの表彰式が行われます。入賞者の皆さん、おめでとうございます。

第69回　青少年読書感想文全道コンクール
第49回　北海道指定図書読書感想文コンクール　特別賞入賞者一覧

北海道知事賞	＊「前むきなきつね」	岩見沢市幌向小	２年	田中　綾乃
	＊カラフルな世界を目指して	上富良野町上富良野中	３年	伊藤　福
	＊幸せとは	士別翔雲高	２年	中原　彩羽
北海道議会議長賞	＊「とっても本がすき」	函館市北美原小	２年	有金　空冴
	＊ゆめを持ち前へ歩け	森町森小	４年	今井玲一朗
	＊「かけがえのないピアノ」	教育大附属旭川小	５年	本間　明華
	＊「スクラッチ」を読んで	小樽市松ヶ枝中	１年	上田　遥
	＊ラブカは静かに弓を持つ	札幌光星高	３年	野崎　幸子
北海道教育委員会教育長賞	・「きつねはわたし、うさぎはおかあさん」	札幌市明園小	１年	山崎　史果
	＊食べ物の大切さ	岩見沢市岩見沢小	４年	三嶋　芽衣
	＊キャラを被った私に『さようならンダバ』	帯広市帯広小	５年	須田　陽愛
	・「頑張れ、君なら絶対出来るよ」	音更町共栄中	３年	横澤　紗映
	・にぎやかな地球　共に生きぬく	遺愛女子高	１年	大北　弥生
北海道学校図書館協会長賞	・「ぼくは、ぼく」	札幌市平岡公園小	２年	井川　眞宏
	・未来のためにできること	岩見沢市南小	４年	福村　芽生
	・平和の語り部	安平町追分小	５年	本多祐実香
	・幸せとは何か	教育大附属旭川中	３年	荒谷　成美
	・『人を信じる心』	帯広緑陽高	３年	澤田あやの
毎日新聞社賞	・『いのちがかえっていくところ』を読んで	札幌市清田南小	２年	田島　敬仁
	・伝統を守っていくために	小樽市稲穂小	４年	小泉　紀歩
	・「私も魔女だったかもしれない」	安平町早来学園	５年	吉田　心咲
	・「正欲」を読んで感じたこと	帯広市帯広第四中	３年	雨谷　桃果
	・別れの途上	帯広南商業高	１年	齋藤　優芽
北海道読書推進運動協議会長賞	・お母さんありがとう	岩見沢市岩見沢小	２年	和田　奈々
	・私は、線を描く	岩見沢市豊中	３年	大森　花音
	・あなたの教室	士別翔雲高	２年	佐々木花楓
北海道青少年育成協会長賞	・「みんなで目指す思いの強さ」	別海町別海中央小	５年	上杉実日子
	・『今、世界の空は何色か。』	小樽市松ヶ枝中	３年	岩松　莉香
北海道ＰＴＡ連合会長賞	・過程にこだわり、結果にこだわる	旭川市啓明小	５年	横澤　弦
北海道高等学校ＰＴＡ連合会長賞	・使者の心得	士別翔雲高	２年	伊藤ひばり
北海道教育振興会長賞	・大せつな気もち	苫小牧市若草小	１年	田嶋　匠
	・加藤先生の思いとともに	岩見沢市南小	４年	長江　理仁
	・平和をつくるには	札幌市西宮の沢小	６年	板倉　悠起
	・大人になるということ	札幌市羊丘中	１年	引田　明里
	・僕も上手にしゃべれない	旭川実業高	１年	土居　竜大
北海道教育文化協会賞	・僕は、誰だ。	留萌市港南中	３年	福岡　唯
	・「嫌われる勇気」を得られたのか	遺愛女子高	１年	藤田　真維
はるにれ賞	・伝えていくよ「ジャパニーズ カルチャー」	苫小牧市拓勇小	３年	京極　莉空
教育出版社賞	・『赤毛証明』を読んで	帯広市豊成小	６年	木藤　芳菜
文研出版社賞	・すてきなしゅくだい	岩見沢市岩見沢小	１年	村本　紗那
北海道図書教材協会賞	・広がれ！フードバンク	室蘭市旭ヶ丘小	４年	太田　悠翔
図書館ネットワーク賞	・「はじめましてのダンネバード」を読んで	室蘭市天神小	４年	福士　凛子
北海教育評論社賞	・僕の挑戦	旭川市愛宕東小	５年	宮田桜太朗
光陽社賞	・ありがとうがいっぱい	苫小牧市美園小	１年	千秋　翔蓮
光村図書出版社賞	・「ランドセルは海を越えて」を読んで	旭川市啓明小	４年	渡部　真白
学校賞	小学校の部	**岩見沢市立岩見沢小学校**		
	中学校の部	**小樽市立松ヶ枝中学校**		
	高等学校の部	**北海道士別翔雲高等学校**		

＊は、全国コンクール応募作品です。（各部から代表～自由１点・課題１点）

北海道知事賞

「前むきなきつね」

岩見沢市立幌向小学校　二年　田　中　綾　乃

わたしは、絵をかいたり、ピアノをえんそうしたり、うんどうすることが大すきです。

だけど、ならいごとにはしていません。早く上手になりたいのではなく、自分でいろいろ考えて、自分の力で上手になれたと思うと、とてもたっせいかんをかんじられて、自分に自しんをもてるからです。でも、上手にできるようになるまでは、しっぱいもたくさんします。なんども同じしっぱいをくりかえすと、「わたしにはできないのかなぁ」と、おちこんでしまいます。そのたびに、かぞくやともだちが「だいじょうぶだよ。」と、はげましてくれるので、またがんばろうと力がわきます。

「それで、いい！」のきつねが、本を読んでいくうちに、わたしとにているなぁと思い、むちゅうで読みました。きつねは絵をかくのがすきで、さいしょは楽しくかいていたけど、すごい絵をかくことにこだわりすぎて、自しんをなくしてしまいます。でも、楽しくかいていた時の絵には、きつねの気もちや思い出が、たくさんつまっていて、絵を見た人の心をあたたかくできる絵でした。すごい絵は、すごいものをかいた絵ではなく、自分が本とうにかきたいものを、かきたいようにかいた絵のことだと思うので、「それで、いい！」なんだと思いました。

この本をよんで、いんしょうにのこったところは、きつねが前むきな考えをもっていることです。絵をわらわれても、かき方をちゅういされても、もっとすごい絵をかこうとがんばろうとしていました。わたしなら、ひとりでは前むきになれないし、きっとあきらめてしまうと思います。いまは元気にしてくれる人がまわりにいてくれて、たすけてくれるのでがんばることができます。すきなことを、ずっとすきでいられるように、わたしが自しんをもって「それで、いい！」と言えるように、きつねの前むきな考え方をわすれないようにしたいです。そして、わたしのまわりにいるひとにも、「それで、いい！。」といってあげれるようになりたいです。

『それで、いい！』
礒　みゆき／作
はた　こうしろう／絵
（ポプラ社　2022.11刊）

総　　評

審査委員長　北海道学校図書館協会監査　**矢田　春義**
（市立札幌新川高等学校校長）

本年度の第69回青少年読書感想文全道コンクール及び第49回北海道指定図書読書感想文コンクールには、昨年度と同じく646点の作品が寄せられました。各支部の審査を経た作品はどれも読みごたえがあり、応募していただいた皆さんの労に報いるべく、審査員一同時間をかけ、丁寧に審査にあたりました。今年も多数の力作を目の当たりにすることができ、大変嬉しく思うのと同時に、児童生徒の皆さんはもちろん、日頃から図書活動や読書感想文の推進に尽力されている先生方、ご支援いただいている保護者の皆さんに敬意と感謝を申し上げる次第です。

本コンクールでは、小学校低・中・高学年、中学校及び高等学校の５部門に分かれ、総勢21名の委員により厳正に審査を行いました。審査を通して気づいたことや感じたことを幾つか述べます。まずは読後の感想や自身の考えをよく整理し、全体の構成を工夫して書き上げている作品が多く見られました。この点が優れている作品は、途切れの無い流れがあり、読み手側に心地よいリズムを感じさせてくれます。また表現について、奇をてらわず自分が伝えたいことを素直に文章にしている、という印象を受けました。難しい言葉を用いるなど、時には“背伸び”するなどの挑戦も大切ですが、身の丈にあった平易な言葉でも推敲を重ねることで、十分効果的に言葉を紡ぐことができます。自分の表現が成功しているかどうかは、何度も読み返し、相手に伝わるかどうかを想像することで確認することができます。是非、実践してみることをお勧めします。最後に、単なる感想に留まらず、読書を通して感じたこと、自身の興味関心や視野が広がったり、自分を振り返り新たな課題を見出したりするなど、内なる変化や自らを成長させようとする力強い意思が伝わってくる作品もあり、胸に熱いものが込み上げてくるような感動を覚えました。皆さんの筆力の高さと、文章の可能性をあらためて認識することができました。

これからも、児童生徒の皆さんが多くの書と出会うことで、良質な学びとともに心がさらに豊かになり、彩の溢れる充実した生活を送ってくれることを願っています。

北海道知事賞

カラフルな世界を目指して

上富良野町立上富良野中学校　三年　伊　藤　　福

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』、このタイトルをみたとき、初めは気持ちを色で表しているのだと思った。読み進めていくうちに、段々と違う意味をもつことがわかっていく。「差別、格差、多様性とはなんだ」この問いを「ぼく」と、著者である母が共に考えていく。そして読者である私も一緒に考えるようになった。

「ぼく」はアイルランド人の父と日本人の母を持つハーフでイギリスのブライトンという街に住んでいる。ここからイエローでホワイトという言葉がくる。イエローは黄色人種日本人、ホワイトは白色人種、アイルランド人ということだ。小学校までは市のランキングで常にトップを走っている名門校、カトリックの小学校に行っていたので、差別、格差について考える機会はあまりなかった。しかし友人と一緒の学校にいくため、元底辺中学校に通うようになる。そこは英国社会を反映するようなリアルな学校だった。黒人に対する差別用語を言う人がいたり、お金がなくて学食を万引きしていたり、格差によるいじめが起きたり、私立校と公立校の格差があったり、色々な家庭環境があったりとカトリック校ではあり得なかったことがこの学校では毎日のように起きる、イギリスではこの状況が普通なのかこの学校が荒れているのかは分からないが、日本、それも北海道ののどかな田舎の上富良野にいる私にとって考えられないことがこの世界で起こっているのだ。けれど私がこの中学校に通っていたら、問題を解決したいと思う。「ぼく」と考えが似ていた。ぼくも見てみぬふりをするのではなく一つ一つのこととしっかり向き合い考え、発信した。どちらかの味方をするのではなく、自分の正しいと思うことをよく考え、実行していく。

「ぼく」は、母の母国の日本での生活も経験する。日本人と容姿が違うため、冷たく対応されたり、陰口を言われたりして何もしてないのに不快な気持ちになることもあった。イギリスと日本、どちらでも差別される境遇から、色々なことを考えていく「ぼく」の姿をみて、どんな悩みでも、考えることが解決の糸口になるという、当たり前のことだけど、大切なことを、再確認した。

なぜ人は分けたがるのだろうか。そして自分や周りの人達と違うとなぜ変な目で見たり、攻撃したりしてしまうのだろうか。多様性は良いことではないのか、多様性という言葉だけを広めてもその意味をしっかり理解し行動しないとただの差別の原因となる。多様性ということで、普通と違うというラベルを張っているようなものだ。本文の最後の解説に、この本を読んだ私と同じ中学生の感想の一部が載っていた。その子は、「多様性はトラブルの原因となってしまうし、多様ではない、均一な集団の方が平和ではないか？と疑問が湧いた」と言っていた。けれど、均一であることが良いことだとは、私は思わない。たしかに、均一だと差別が起こることは少なくなるかもしれない。傷つく人もいなくなるかもしれない。しかしおもしろみがない。違うからこそ得るものや学ぶべきことがある。そして、自分と違うことを知ることが、楽しい。

家庭環境も、多様性の一つだ。私の周りにもシングルマザーやシングルファザー、施設祖父母、父母など色々な家庭がある。色々な形があって良いと思う。様々な育ち方や環境があるからこそ人によって考え方が異なり、新しい考え方を得ることができる。私の母もシングルマザーだ。けれど私は産まれてから一度もそのことで不快な気持ちになったことはない。みんなと何ひとつ変わらない楽しい生活をしている。それは、母がとても頑張ってくれていることはもちろん、周りの友達も何も気にせず接してくれていて、母が仕事で忙しい時は、祖父母もサポートしてくれているという、環境の良さからできていることだ。だから、みんなの考え方を変えないと世界は変わっていかない。固定概念で自分と違うからって差別するのは間違っている。みんなと違うことは嫌なことでも悲しいことでも幸せでないことでもない。それがプラスに働くこともある。多様性が輝く世界をつくっていくためには、みんなの思っている「普通」を変えていかなければいけない。まずは私自身が自分の持っている「普通」を捨てようと思う。

私の夢は助産師になることだ。そこには、色々な親や子供がいる。ある意味、多様性の集まりみたいな場所かもしれない。そこは、母子のこれからの人生のスタート地点になる場所でもある。だから私はこれから楽しみと思わせられるような助産師になりたい。困っている母親には、さまざまな支援があることも伝えていきたい。そして、どんな子供たちにも「みんな違ってみんないい」と思ってもらえるようにしたい。

私は今、イエローでグリーンだ。これから何色にもなれる。世界中が極彩色でカラフルになるように、私自身もカラフルに生きる。

『ぼくはイエローで
ホワイトで、
ちょっとブルー』
ブレイディ　みかこ／著
（新潮社　2019.6刊）

北海道知事賞

幸せとは

北海道士別翔雲高等学校　二年　中　原　彩　羽

「あなたにとって、幸せとはなんですか？」この問いにどう答えるか。そもそも、正解なんてものがあるのだろうか。

人というものは多かれ少なかれ、必ず後悔をするものだと私は思う。実際に私自身、過去の行動について後悔したことは数えきれないほどある。もしそんな後悔を、昔の自分に伝えられたら。これからその時を迎えようとする自分に、助言ができたら。より幸せな未来を、自分に与えることができるのだろうか。

私がこのことについて考えるきっかけとなったのは、住野よる氏が書いた『また、同じ夢を見ていた』という小説である。「人生とは、」が口癖の小学生、小柳奈ノ花が物語の主人公。奈ノ花は国語の授業で課された、「幸せとはなにか」というテーマについて考える。そんななか、尻尾のちぎれた猫との出会いをきっかけに、様々な過去を抱える三人の女性に出会う。手首に多くの傷を持つ南さん。賢くかっこいいアバズレさん。お菓子作りの得意なおばあちゃん。奈ノ花は彼女たちと仲良くなり、たくさんの話をした。実は彼女らは、奈ノ花が人生において、違う選択をしたときの未来の姿なのであった。いろいろな話をしていくなかで彼女ら自身もそのことに気がつき、小学生の奈ノ花に対してそれぞれ助言を残した。最終的に奈ノ花の前から姿を消したが、奈ノ花は三人との出会いを通して、「幸せとは」の問いの答えを導く。

作中で彼女たちは奈ノ花に、自分たちの考える幸せとはどのようなものなのか教えてくれる。南さんは奈ノ花に言った。幸せとは、「自分がここにいていいって、認めてもらえることだ。」と。アバズレさんは、「幸せとは、誰かのことを真剣に考えられるということだ。」と言う。おばあちゃんはこう言った。幸せとは、「今、私は幸せだったって、言えることだ。」

さて、みなさんは幸せとはなにか、考えたことはあるだろうか。ありきたりに思える問いではあるが、考えたことのない人も多いのではないかと思う。私も正直、深く考えたことはなかったが、この本をきっかけに自分なりに考えてみた。

今の私はこう考える。幸せとは、何か美しいものを見たとき、何か心が動かされる出来事があったとき、それを共有したいと思える人がいることなのではないかと。別に、奇麗なものを見たり、喜怒哀楽を感じること自体が幸せなのではない。誰かにそれを伝えたいと思えることが一番の幸せなのだと私は思う。たとえその相手が友だちだろうと、家族だろうと、動物だろうと。現代社会において、自分の置かれている状況や感情について悩みがあっても、それを誰にも相談できず一人で抱えこんでしまう人は決して少なくない。コロナ禍でリモートワークが主流となり、人との直接の関わりが減ってしまったこともその要因の一つだろう。私たち自身も、二度と経験することのできない、人生で一度きりの学生生活を、多くの制限のもとで過ごしてきた。そんな世の中で、話したい、伝えたいと思える存在がいるということは、この上なく素敵なことなのではないだろうか。

だがこれは、高校二年生の私が考える幸せの形にすぎない。南さんやおばあちゃんのように、きっと幸せの形は人それぞれなのだろう。美味しいものを食べることも、家族団らんの時間も、大切な人とともに過ごせることも、どれも全部、誰かにとっての幸せ。十人いれば十種類、百人いれば百種類の答えが出てくるに違いない。一年後の私もまた、今の私とは違った答えを述べるのかもしれない。この問いに正解などないのだろうと、私は思う。

今の私たちはまだ、高校生。いや、もうすでに、高校生。同じ教室で授業を受けているクラスメイトも、部活動で切磋琢磨し合う仲間たちも、卒業後にはきっと、それぞれ違う道を歩いているのだろう。自分の人生のために、夢の実現のために、何が必要なのか自分自身で考え、たくさんの選択をしていかなければならないのだ。きっとうまくいかないことや心が折れそうになることもあるだろう。自分の目指す場所はどこなのか、何のために頑張っているのか、分からなくなってしまう。そんなときには、自分にとっての幸せとは何か、改めて考えてみるのはどうだろうか。それが何かのヒントになったりならなかったり。そうして多くのことを乗り越える。あとから振り返ってみたときに、良かったと思える出来事も、後悔するような出来事も、全部含めて自分の人生。同じ人生を歩む人など誰一人として存在しないのだ。そんな、私だけの人生を、私はなるべく多くの幸せで埋め尽くしていきたい。いろんな色の、いろんな柄の幸せを、一つ一つつなぎ合わせて。

だからきっと、私はこれから先も、正解のないこの問いの答えを探し続けていくことになるのだろう。
「あなたにとって、幸せとはなんですか？」

『また、同じ夢を見ていた』
住野　よる／著
（双葉社　2016.2刊）

北海道議会議長賞

ゆめを持ち前へ歩け

森町立森小学校　四年　今　井　玲一朗

「人間は夢を持ち前へ歩き続ける限り、余生はいらない」

平きんじゅ命が五十さいてい度だった江戸時代に、五十さいから上京して勉強を始め、日本地図を書いていった伊能忠敬の言葉に、あきらめない心の強さを感じた。

ぼくは地図を見るのが大好きだ。地図のみ力は世界中とつながっていくこと、たんさくしながら行ったことのない場所もそうぞうして、まるで旅をしているような気分になれることだ。そんなぼくに父が伊能忠敬という人物を教えてくれたので、この本を読んでみた。

伊能忠敬は、しょう来学びたい学問のためにひつような道具や人みゃくをじゅんびしていた。これがしょう来の成功につながった。

成功のためにはじゅんびが大切だ。ぼくは、まだしょう来なりたいものは決まっていないけれど、地図を書く仕事も楽しそうだ。色々なかのうせいを広げるためにも学問をおろそかにせず、日々の学習に真けんに取り組みたい。

伊能忠敬のように、自分の知りたいというよっきゅうをしっかり満たしながら、今学べる事を一生けん命身につけて、しょう来のかのうせいを広げていきたい。

伊能忠敬の地図を見て、二百年以上前にげん代と同じくらいのせい度でえがかれていることにしょうげきを受けた。歩いてそく量した結果をもとにした地図で、近代的な機械もないのにである。

伊能忠敬の第一次そく量の目的地が、ぼくの住む北海道であり、えがかれた地図を見ると、ぼくの家の近くを通っていることが分かってドキドキした。ぼくも同じようにそく量してみたいと思い、歩いてみた。自分の家から駅までのきょりを何度か歩はばや道具を使ってそく量してみたら、毎回少しずつずれてしまう。これはとてもむずかしい。伊能忠敬の一歩はつねに六十九センチメートルだった。

それを身につけるのも大変な努力が必ようだったはずだ。「歩け、歩け。続けることの大切さ」とは何と重たい言葉だろう。伊能忠敬の行ってきたことや、また完成した地図を見て地道にこつこつ続けていくことが、大きなことを成しとげるために一番大事な事なのだと深く理かいすることが出来た。

もう一つ大事なことは、伊能忠敬にはししょうやたくさんの弟子や仲間がいて、一人ではなく、かれらが協力して完成させたということだ。だれ一人手をぬかずに作り上げたものだから、ぬくもりや、やさしさ、力強さが感じられるシンプルだけど美しい絵画のような地図になった。ぼくもしょう来自分の仕事でだれかにそのような感動をあたえることが出来たら幸せだなと感じた。伊能忠敬が歩き続けたように、日々努力を続けて大きな事を成しとげられる人になりたい。

ぼくの大好きな地図のみ力をまた一つ教えてくれた伊能忠敬と、伊能忠敬というすばらしい人物を教えてくれた父に感しゃし、今日も大好きな地図を広げて新たな旅に出たい。

『伊能忠敬』

日本列島の海岸線を歩きとおし、日本初の実測図を作りあげた忠敬の足跡

清水　靖夫／監修

（ポプラ社　2003.4刊）

北海道議会議長賞

「かけがえのないピアノ」

北海道教育大学附属旭川小学校　５年　本　間　明　華

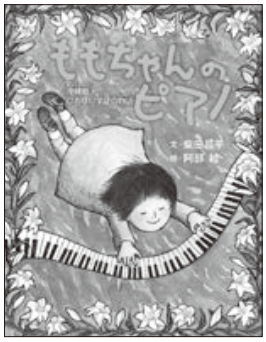
私は、四歳からピアノとクラシックバレエを習っています。将来は、音楽やダンスの楽しさを子どもたちに教える学校の先生になりたいと思っています。私がこの本を手に取ったのは、踊る様にピアノを弾く女の子の絵にひかれた事と、目次が楽章で分けられているのが、ソナタの様で面白いと思ったからです。

第一楽章を読み始めると、私と同じく音楽の時間が大好きな女の子、ももちゃんが登場しました。トンボの羽根の模様を五線譜に、ピアノの音を、しずくのきらめきにたとえるももちゃんは、感性の豊かな子だと思いました。グランドピアノのあるひめゆり学園を目指して、苦手な勉強に励んだ気持ちも共感できました。私も昨年、念願のグランドピアノを用意してもらい、「コンクールに向けてたくさん練習できる。」と、ワクワクしたからです。

物語は、第三楽章に入ると曲調が変わります。沖縄が戦場となり、学園の生徒たちは、負傷兵の看護の仕事を命じられたからです。私と同年代の子どもたちが、砲弾が飛び交う戦地で働いていたと知り、驚きました。「死体となろう」と歌った卒業式や、寝る時間も横になる場所もない真っ暗なトンネルでの生活、おだんごのような小さなおにぎりが一日一個の食事、自ら死を選ぶために渡された手りゅう弾…ももちゃんの体験は、戦争を知らない私には、想像することも難しい、悲しい事ばかりでした。トンネル内でもみかん箱のピアノで練習を続けたももちゃんの頭から、しだいに音符が消えていく場面を読んで、胸が痛くなりました。

一番印象に残ったのは、ピアノを教えてくれた東風平先生の最後の言葉、「ぜったいに死ぬんじゃない。生きるんだぞ。」です。学校で「生きて捕虜になることは最大の恥」と教わったももちゃんが、あきらめず生きのびることができたのは、東風平先生の言葉を信じたからだと思います。そして、彼女の心を支えたのは、先生が演奏した『月光』です。私も弾きたいと目標にしている曲です。緊張感のある第三楽章の旋律に、「命の躍動」を感じ生きようとしたももちゃんを想い、改めて曲を聴くと、一層迫力が増します。私もいつか人の心を動かしたり、生きる力になったりする演奏をしてみたいと思いました。最終章で、大切な人を失い、ピアニストになる夢がかなわなくても、前向きに生きるももちゃんの姿に、救われる気がしました。

昨年、ロシアのウクライナ侵攻が報道された時、私は丁度、ウクライナ民謡曲を練習していました。高名なピアニストやバレリーナの出身国で戦争が起きたことに、ショックを受けました。遠い場所にいる私にできる事は少ないですが、突然に日常を奪われ、苦しみ悲しむ人たちに、心を寄せたいです。そしてももちゃんの様に、いつでもどこでも好きな曲を、聴いたり弾いたりできる日常をかけがえのないものだと感じる気持ちこそが、毎日の平和を守る事につながっていくと考えます。



『ももちゃんのピアノ
沖縄戦・ひめゆり学徒の物語』
柴田　昌平／文
阿部　結／絵
（ポプラ社　2022.5刊）

2023年度（令和5年度）北海道の先生がおすすめする本

北海道指定図書

小学校低学年の部（1・2年）

がっこうにまにあわない

ザ・キャビンカンパニー／作・絵
あかね書房　1,650円（税込）

不思議な世界をひたすら突っ走る。今日は学校に遅れちゃいけないわけがあるのだ。スピード感とスリルでドキドキの話!

うみべのおはなし 3にんぐみ

ジェイムズ・マーシャル／作　小宮 由／訳
大日本図書　1,540円（税込）

なかよしの3人組が、自分の考えたお話を順番にしていく事になり…!? 予想を超えた展開が面白い! ユーモアよみもの

イライラのあらし

ルイーズ・グレッグ／作　ジュリア・サルダ／絵
吉井 知代子／訳　金の星社　1,540円（税込）

"イライラのあらし"がきたらどうしたらいいの!? どんどんふくらんでいくイライラと、じょうずにつきあいます。

いのちがかえっていくところ

最上 一平／作　伊藤 秀男／絵
童心社　1,430円（税込）

自分で釣りあげたイワナを食べる事になったたもん。釣りを通じて命の躍動と重さを実感する少年の姿を描きます。

小学校中学年の部（3・4年）

はじめましてのダンネバード

工藤 純子／作　マコ カワイ／絵
くもん出版　1,540円（税込）

「相手の気持ちに立って想像すること」や「多様性を尊重すること」の大切さを伝える、くもんの創作児童文学です。

バスが来ましたよ

由美村 嬉々／文　松本 春野／絵
アリス館　1,540円（税込）

全盲の男性が小学生に助けられて続けた、バス通勤。「バスが来ましたよ」の声は受け継がれ…小さな親切のリレーの物語。

貝のふしぎ発見記

武田 晋一／写真・文　福田 宏／監修
少年写真新聞社　1,980円（税込）

貝の正体は軟体動物! タコやイカも、ウミウシやカタツムリもみんな仲間。ふしぎな生き方を探ると驚きの連続です。

小学校高学年の部（5・6年）

父さんのゾウ

ピーター・カーナバス／作　美馬 しょうこ／訳
文研出版　1,540円（税込）

オリーブは母が亡くなり、父さんは悲しみにくれている。そのそばにはいつもゾウがいる。ゾウを消したいオリーブは…。

たぶんみんなは知らないこと

福田 隆浩／作　しんや ゆう子／イラスト
講談社　1,540円（税込）

知的障がいのある小五の女の子すずと兄の物語。人々の優しさやすずの真っ直ぐに生きる力で本人も周りも成長する。

ももちゃんのピアノ
沖縄戦・ひめゆり学徒の物語

柴田 昌平／文　阿部 結／絵
ポプラ社　1,650円（税込）

音楽を生きる力に変えて、沖縄戦を生き抜いたひめゆり学徒のももちゃん。その半生を描いたノンフィクションです。

中学校の部

マスクと黒板

濱野 京子／作
講談社　1,540円（税込）

休校明けの生徒たちの前に見事な黒板アートが。誰が描いたのか? コロナから「ふつう」をとりもどす中学生たちの物語。

スクラッチ

歌代 朔／作
あかね書房　1,650円（税込）

コロナ禍で黒く塗りつぶされた中三の夏。その中でもがきながら自分らしい生き方を掴み取る中学生たちの"爪痕"を描く。

北海道の本を読みましょう!

第69回 青少年読書感想文全道コンクール　第49回 北海道指定図書読書感想文コンクール

■主催／北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社
■後援／北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会　■選定協力／北海道読書推進運動協議会

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。 ●ホームページ　北海道学校図書館協会　検索

優 秀 賞

小学校（低学年）の部（12名）

作品名	氏名	学校名	学年
しぜんをまもりたい	中村日和	岩見沢市岩見沢小	２年
「バスが来ましたよ」	藤田紗優	羽幌町羽幌小	２年
「しっぱいにかんぱい」を読んで	勝瀬ももか	函館市湯川小	２年
クマのヌプとカナが教えてくれたこと	中村曜	東神楽町志比内小	２年
『それぞれ　みんな』	丹瑞羽	岩見沢市東小	１年
よるにはたらくってすごい	粕川夏生	札幌市大谷地小	２年
さびしいわたし、バイバイ	今井愛心	森町森小	２年
「ぼくは　ぼくのまま」	田中玲太	岩見沢市幌向小	１年
大切なひみつのおまもり	工藤美愛	音更町鈴蘭小	２年
うさぎがたくさん	杉森葵	札幌市白楊小	２年
わたしの知らない夜のせかい	坂本結	札幌市二条小	２年
思いやりのたねを作ろう	笹谷朱里	伊達市伊達小	２年

小学校（中学年）の部（12名）

作品名	氏名	学校名	学年
つたえたい気持ち	佐藤杏奈	室蘭市旭ヶ丘小	３年
十歳のきみへ―九十五歳のわたしから	本田結椛	函館市北美原小	４年
『わたしはわたしのままでいい！』	阿部心優	余市町大川小	４年
強い気持ち	坂上千寿	岩見沢市岩見沢小	４年
知ったわたしにできること	安居小優莉	深川市一已小	４年
命を守るお仕事	松前ひかり	名寄市名寄南小	３年
ありがとう給食	佐藤陽莉	真狩村真狩小	４年
「未来へつなぐわたしの思い」	茂田さくら	教育大附属旭川小	４年
とびきりの笑顔がみたいから	鈴木快都	札幌市厚別北小	３年
「バスが来ましたよ」を読んで	上林明日花	小樽市山の手小	３年
宿命のダンネバード	菅原愛花	旭川市啓明小	４年
ゆう気の一歩	佐々木梨花	帯広市若葉小	３年

小学校（高学年）の部（12名）

作品名	氏名	学校名	学年
『犬たちをおくる日』を読んで	安住匠永	札幌市発寒小	６年
ふつうって何？	新田明日葉	苫小牧市緑小	６年
真代ちゃんの「またあした」	藤枝皇王	岩見沢市日の出小	６年
原石	太田樹	函館市北美原小	６年
「中村哲物語」を読んで	宮﨑爽	札幌市桑園小	５年
第八レーンの涙と私のロールモデル	佐々木結望	小樽市山の手小	５年
未来への使命	丸山紗由	北見市東小	５年
ありのままの自分で生きるために	米倉優妃	留萌市留萌小	５年
思い出は宝物	森永萌々夏	札幌市北野台小	５年
父さんのゾウを読んで	熊谷優輝	室蘭市八丁平小	６年
「ももちゃんのピアノ」を読んで	武田涼佑	室蘭市海陽小	６年
『たぶんみんなは知らないこと』を読んで	宮本俊洋	増毛町増毛小	５年

優　秀　賞

中学校の部（15名）

作　品　名	氏　名	学　校　名	学年
「努力は報われるのか」	遠藤隼鷹	苫小牧市明野中	３年
夢を叶えるために	瀬尾奈津希	遺愛女子中	１年
『素敵だと思える自分に』	倉百合香	遺愛女子中	２年
「星くずクライミング」を読んで	井上さや	遺愛女子中	３年
見えないけど感じられる“色”	金澤木詠	岩見沢市豊中	１年
人によって異なる価値観と個性	工藤桔伊	苫小牧市沼ノ端中	２年
「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら」を読んで	坂爪愛瑠	小樽市望洋台中	２年
「人生は自分自身で創り上げる」	能登琴埜	遺愛女子中	３年
二度と戦争をしないために	西村光之助	美幌町美幌中	２年
多角的にとらえることが世界をカラフルにする	田中結衣	藤女子中	２年
ふみ出せた先には	渋谷明日椰	幕別町札内中	１年
「コロナ禍を削りだせ！」	佐藤咲弥	遺愛女子中	３年
日常	立野湊楽	苫小牧市明野中	１年
一歩踏み出すこと	小泉真歩	小樽市菁園中	１年
ほんとうの楽しさって何だろう	岩﨑華	札幌市向陵中	１年

高等学校の部（５名）

作　品　名	氏　名	学　校　名	学年
「夜と霧」を読んで～自分は人生から問われている存在～	関根凛子	札幌聖心女学院高	３年
「また、同じ夢を見ていた」を読んで	谷口まる	札幌聖心女学院高	３年
理解し合うということ	須田悠菜	帯広緑陽高	３年
「ユリに学ぶ平和と幸せ」	小川結夏	函館中部高	１年
アンビシャス―あなたの心にフロンティアはありますか？―	北村優奈	士別翔雲高	３年

◆2023年度版感想文集『北海道の読書』の普及を！

第69回青少年読書感想文全道コンクール入賞作品集

○小学校版（1,300円）

特別・優秀・優良　入賞者全作品を掲載

○中学校・高等学校版（1,300円）

特別・優秀・優良　入賞者全作品を掲載

【申し込み・問い合わせ】

北海道学校図書館ＨＰ＞読書感想文コンクール＞北海道の読書＞学校宛・個人

札幌市立平岡小学校　教諭　佐藤秀則　ＦＡＸ　011－883－9419

■12月28日までに「北海道学校図書館協会文集会計」宛に、申込・送金をお願いします。
１月下旬にお届を予定しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。
締切を過ぎての申込の場合、２月下旬のお届けとなります。

優 良 賞

小学校（低学年）の部

室蘭市地球岬小	１年	齊藤　漆磨
教育大附属旭川小	１年	茂田のどか
苫小牧市拓進小	２年	田野　栞絆
旭川市東五条小	２年	安藤　日虹
室蘭市旭ヶ丘小	１年	久代　涼翔
室蘭市旭ヶ丘小	１年	黒田虎士郎
室蘭市喜門岱小	２年	西岡　聖彩
教育大附属旭川小	１年	鹿又　天翔
小樽市山の手小	２年	村中　崚真
室蘭市旭ヶ丘小	１年	池田　凌
岩見沢市岩見沢小	１年	齋藤　妃那
岩見沢市岩見沢小	２年	山本　一華
留萌市留萌小	２年	高橋　紘香
音更町木野東小	２年	稲船　絵菜
室蘭市旭ヶ丘小	２年	太田　怜愛
旭川市大有小	１年	川邊　結彩
札幌市みどり小	１年	相馬　和人
函館市桔梗小	２年	長内　礼
函館市神山小	２年	本田健一朗
室蘭市蘭北小	２年	石原　陽琉

小学校（中学年）の部

浜中町茶内小	４年	鈴木　千珠
留萌市緑丘小	３年	野上　音
苫小牧市拓勇小	３年	京極　莉空
小樽市山の手小	３年	佐々木深悠
室蘭市蘭北小	４年	杉山　櫻來
旭川市近文小	４年	秋葉ひなみ
留萌市緑丘小	４年	久留宮　凛
札幌市円山小	４年	於保かなさ
苫小牧市若草小	４年	田嶋　新
苫小牧市拓勇小	３年	京極　聖空
岩見沢市中央小	３年	伊田　陽咲
留萌市留萌小	３年	米倉　旭飛
函館市桔梗小	３年	渡辺　結来
札幌市伏古小	３年	小関　隼人
室蘭市天神小	４年	南川瑛大朗
旭川市愛宕東小	３年	宮田丈二朗
滝川市滝川第三小	３年	橋本　美鈴
旭川市末広北小	４年	窪田こはる
旭川市忠和小	３年	林　澪那
士別市士別南小	３年	大西　真央

小学校（高学年）の部

帯広市緑丘小	６年	小林　朱莉
札幌市北野台小	６年	中川　華
札幌市新光小	６年	佐藤　美和
札幌市開成小	５年	小野芽衣子
札幌市新陽小	５年	佐々木天夢
室蘭市旭ヶ丘小	６年	篁　一仁
余市町黒川小	６年	大平　紘暉
新ひだか町高静小	５年	原　万琴
旭川市神楽小	５年	柚木　紗南
札幌市厚別北小	５年	佐々木正明
札幌市桑園小	５年	木村　暉
旭川市神居東小	５年	青木　慧悟
苫小牧市緑小	５年	梅田　七緒
留萌市留萌小	５年	福岡　碧
旭川市北鎮小	６年	川口　乃々
苫小牧市拓勇小	５年	京極　大空
札幌市桑園小	６年	秋田谷咲乃
羽幌町羽幌小	６年	廣野日菜子
滝川市東小	５年	川村　彩菜
士別市士別小	５年	斉藤　舞澪

中学校の部

旭川市東光中	１年	横澤　廉翔
藤女子中	１年	前田　海音
小樽市菁園中	２年	寺田　智陽
遺愛女子中	３年	村井　暖奈
札幌市厚別北中	１年	吉田　桜彩
遺愛女子中	２年	野口　桃佳
札幌市信濃中	２年	坂本　温音
小樽市菁園中	１年	塚原　大海
藤女子中	１年	前田　海音
遺愛女子中	３年	室井　珠希
函館市本通中	２年	大北　結月
美幌町美幌中	１年	山本　奈央
小樽市松ヶ枝中	１年	佐々木悠凪
室蘭市桜蘭中	１年	星野　希歩
美幌町美幌中	３年	吉見　比呂
新得町新得中	２年	佐藤　瑠璃
札幌市向陵中	１年	中道　優奈
旭川市愛宕中	３年	岡山　璃来
美唄市美唄中	２年	壽盛　空大
室蘭市港北中	３年	河内　三咲
別海町別海中央中	２年	上杉正太郎
岩見沢市北村中	３年	原田　一歩
旭川市愛宕中	１年	穴吹　瑠
岩見沢市光陵中	２年	千葉　好香

高等学校の部

札幌聖心女学院高	３年	西　恵里奈
北嶺高	１年	前田　海杜
帯広柏葉高	２年	藤井　美緒
帯広柏葉高	２年	坂本ひなた
足寄高	１年	大山口皓太
旭川実業高	１年	林　琴桂
旭川龍谷高	３年	石井　聖雪
士別翔雲高	３年	三木　晶葉
遺愛女子高	１年	荘司　涼葉
函館商業高	１年	須川　芹菜

■第55回北海道学校図書館研修講座に参加して

図書資料とICT機器の共存

札幌市立平岸高台小学校　教諭　和　田　　誉

教員２年目として、講師として参加する研修講座で何をお伝えしたら良いか、非常に悩みました。今回の研修では、令和４年12月に行われた全市研究大会での実践をお話しさせていただき、その中でも特に、自分の実践の中で取り組んだ２つの挑戦について発表させていただきました。

近年、一人一台端末の普及に伴って、「ICT機器の活用」がポイントとなっているように感じます。そこで、挑戦の一つ目として、学校図書館の利用と共に、ICT機器を活用することで、「学校図書館とICT機器の共存」を目指しました。市の情報を調べたり、調べたことをまとめたりする際にICT機器を使用しました。実際に使ってみると、

① ふりがなを含む、情報の信憑性を判断することが難しい
② 児童の情報機器活用能力の差
③ 膨大な情報量

という３つの課題が見つかりました。実際に講座では、それぞれに対しての私なりの対応方法をお話しさせていただきましたが、特に②に関しては、低学年からの体系的なICT機器の学びの積み上げが必要だと感じました。

もう一つの挑戦として、調べ学習における資料の一層の充実を目指しました。今回の調べ学習は、「帯広市のお菓子作り」が大きなテーマとなっていたので、パンフレットや学校団体貸出制度を活用し、子どもたちが多くの資料から必要な情報を読み取ることができるよう、準備をしました。たくさんの資料の中から必要な情報を得るために、

① 本の回し読み
② 付箋の活用
③ グループ学習

という３つの手立てを講じました。それぞれについて課題も見つかりましたが、大きな成果を得ることができたと感じています。特に「付箋の活用」では、付箋を色分けして、使用した資料に貼っていくことで、「情報を読み取るのが苦手な児童も、どこを見て情報収集したら良いのかがわかる」、「重要度の高い資料と低い資料を視覚的に判断できる」という大きなメリットがありました。

今後の課題としては、司書教諭を中心とした学校図書館の蔵書充実、そして上でも述べたように、図書館の利用やICT機器の活用について、１年生からの体系的な学びの積み上げが必要になると感じています。コロナ禍においては、「不特定多数の人が触る」ということから図書の利用が制限されたり、休み時間も自由に学校図書館を利用することができなかったりなど、様々な制限がされているのも事実です。そのような中でも、様々な資料から必要な情報を読み取る力、子どもの「もっと知りたい」、「詳しく調べてみたい」という意欲を最大限引き出すために、ICT機器と学校図書館が相互的に補完し合うような関係性が作れると、さらなる発展につながると感じました。今回の実践発表で得た様々なご意見、考えを改めて整理し、校内の学習活動へ還元していきたいと思います。

●第45回北海道学校図書館研究大会苫小牧大会に参加して

～本の世界へ～

苫小牧市立豊川小学校　養護教諭　京　極　由　佳

第45回　北海道学校図書館研究大会　苫小牧大会に参加させていただきました。

ちょっと畑違い？という感じもしますが、折角の苫小牧大会だったこともあり、管理職の先生が快く送り出してくださり、充実した二日間となりました。

沢山の先生方の活発な意見交流やICTを用いた授業など、日常では得られない学びもさせていただきました。特に二日目のセッションでは、「ストーリーテリング」を実際に体験させていただき、語り手の話し口調や、聞き手をひきつけるその魔法のような技にすっかり吸い込まれてしまいました。お話を聞きながら場面を想像したり、次の場面を予想したりする作業は、とても心地よい時間でした。お話の暗記や、読み方の練習など、おそらく沢山の時間を割かれて聞き手のために努力してくださっているのだろうなあ、と思いながら読書とはまた違う体験に感動を覚えました。残念ながら教えていただいた数え歌を絶対覚えておこうと思いつつメモに残さず、忘れてしまったことが失敗でした・・・。それにしても、世界が広がるような素敵な体験をありがとうございました。

本は心の栄養と言います。本校は保健室の隣が図書室という私的には恵まれた環境にあります。不調で保健室を訪れる子どもたちも本を読んで心を静めたり、本に元気をもらったりすることができます。そして、そこから私との会話も生まれるのです。情報が氾濫している現代社会ですが、子どもたちには沢山本を読んで、知らない世界に行き、視野をぐっと広げていってほしいと願っています。

初めて参加させていただいた図書館研究大会でしたが、実りある時間を過ごせました。

関係者のみなさま、大会運営本当にご苦労様でした。

●第45回北海道学校図書館研究大会苫小牧大会に参加して

学びがいっぱい　～苫小牧～

帯広市立栄小学校　教諭　平　野　有　子

この度、初めて北海道学校図書館研究大会に参加させていただきました。2025年度（令和７年度）の帯広・十勝大会に向けて、授業や分科会の様子、会場の様子など、いろいろなことを吸収してこようというのが目的でした。

１日目は、澄川小学校の１年生の授業を参観しました。「いきものかくれんぼずかん」をつくるために、それぞれが事前に選んでいた本からかくれている生き物や、その場所、かくれ方などを一生懸命読み取っていました。担任と学校司書との打ち合わせのもと、学習計画の時間にブックトークがあったこと、みんなが同じ出版社の本を使えるようになっていたことなどを知り、学校司書の存在と連携による授業の幅の広がりを感じました。また、午後からの分科会では、図書資料とICTを活用した授業についての提言を聞きました。「個別最適な学び」や「探究的な学び」といったワードに合致する実践が大変勉強になりました。改めて図書資料とICTのハイブリッドな活用について学んでいきたいと思っています。

セッションでは、苫小牧市内で活躍されている学校司書の方の実践などを聞きました。学校図書館の３つのセンターについて、それぞれのお話を聞けば聞くほど羨ましく思ったのですが、同時に、配置されていない現状であっても、できることはあるのではないだろうかと考えるきっかけとなりました。

内沼氏による講演会もとても有意義な時間でした。本、そして読書への様々な仕掛けが次々と出てきて、「すごいな」「おもしろそうだな」と思っているうちに、あっという間に終わってしまった感じでしたが、お話にあった本との出会い方は、私の勤務している学校でも真似したくなるエッセンスがたくさんありました。ぜひとも行かねばと帰りに立ち寄った東開文化交流サロンでは、利用者が本を分類している棚や、本に貼られている付箋を実際に目にすることができました。毎日通いたくなるようなすてきで居心地のよい空間でした。

充実した２日間を過ごすことができました。苫小牧の大会運営委員会の皆様をはじめ、関係各所の皆様に感謝申し上げます。今大会での学びを次回の帯広・十勝大会に生かすことができるよう、準備を進めていきたいと思っております。

学校図書館情報

◆第51回中学生作文コンクール審査終了

各地区からの作品応募や審査協力をいただきましてありがとうございました。今回のコンクールでは「私の推し」をテーマに、友達、ペット、食べ物、部活、キャラクター、アイドルなど、自分が推しているものから受けた影響について、自らの体験と結び付け、力強く表現した作品が数多く寄せられました。

【表彰式の予定】※各日30分前集合
中央表彰式、札幌・道央地区
：１月５日（金）13時開催
北洋大通センター４階 セミナーホール
道北地区：１月６日（土）13時開催
旭川北洋ビル８階　小ホール
道南地区：１月９日（火）13時開催
函館北洋ビル８階　ホール
日胆地区：１月10日（水）13時開催
室蘭プリンスホテル４階 桃山の間
道東地区：１月12日（金）13時開催
北洋銀行釧路中央支店３階　会議室

◆第56回北海道学校図書館研修講座へのご参加を

・１月９日（火）～ 11日（木）
北海道立道民活動センター（かでる２・７）
９日（火）開講式・全体講演・選択講座
・指導者研修講座
10日（水）選択講座・指導者研修講座
11日（木）校種別選択講座（討議）・閉講式
・講演：「GIGAスクール時代の学校図書館を考える」
講師：専修大学文学部教授 野口 武悟 氏
・参加費：4,000円
・申込：12月１日（金）～ 18日（月）の期間に
イベント申込サービスPeatixにて。
詳細は要項（HPにも掲載）をご覧ください。たくさんのご参加をお待ちしています。（今回は本の話や図書館の悩みなどを気軽に話し合える機会として懇親会も予定しております。）

◆第54回「学校図書館賞」にご応募を！

本賞は学校図書館に関する運動の部（学校図書館運動の推進）、論文の部（学校図書館に関する著作・論文）、実践の部（学校図書館の実践活動）の三部に分けて授賞されます。詳しくは全国SLAのHPをご覧ください。
応募期間2023年10月２日～ 2024年１月31日

◆「北海道の読書」の販売拡大の取組を

前号機関紙323号の発送に合わせて、読書感想文コンクール作品集「北海道の読書」の申込チラシをお送りしています。各学校で印刷をして各家庭に案内していただけますよう働きかけをお願いいたします。

事 務 局

事務局長　新　津　智　哉（札幌市立西陵中学校長）
事務局校　札幌市立西陵中学校
〒063-0835　札幌市西区発寒15条2丁目5-1
TEL 011-662-9323　FAX 011-661-3729

Amenity
B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティＢコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社
〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15
ＴＥＬ （011）857－3331
ＦＡＸ （011）857－5211

◆ 新刊紹介

『さようなら　プラスチック・ストロー』

ディー・ロミート（文）
ズユェ・チェン（絵）
千葉茂樹（訳）
ISBN：978-4-89572-147-9
価格：1,760円（税込）
発行：光村教育図書
発行日：2023年９月30日
対象：小学校中学年から

＜紹介＞
約５千年前に発明されたストローは、なぜ今、問題になっているのだろう？ストローの発明と改良の歴史、使い捨てプラスチックが環境や海の生き物に与える影響、解決策など、SDGsを考え行動するためのノンフィクション。
４つの＜R＞…Reduce（リデュース：ゴミをへらす）、Reuse（リユース:再利用する）、Recycle（リサイクル:資源として再利用する）、そしてRefuse（リフューズ：必要ないものをことわる）…を意識して、できることから始めてみましょう！

編 集 後 記

本号は第69回青少年読書感想文全道コンクールの特集号です。今年も全道各地からたくさんの力作が届き審査員を悩ませました。保護者の皆様や学校関係者をはじめご指導に当たられた皆様に感謝いたします。これからも多くの子どもたちが主体的に本を読み、心に沸き起こる感動を言葉で表現できるような活動を進めていただけますようお願いいたします。

（編集：村山　知成　野村　邦重
大久保　雅人　新津　智哉）

ホームページアドレス
http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/